



教育センターだより

高岡市教育センター
令和7年10月10日



思いを語る

高岡市小学校長会 会長 倉谷 尚宏

渥美清主演の「男はつらいよ」がBSテレビで土曜日に放映されています。「フーテンの寅」こと車寅次郎が、旅先の出来事を茶の間で家族に語る場面を楽しみにしているのですが、中でもセールの仕事に悩んでいる甥の満男に対し、近くにあった鉛筆を手に取り、その売り方を実演する場面が印象に残っています。

「俺はこの鉛筆を見とな、おふくろのことを思い出してしょうがねえんだ」

「(おふくろが削ってくれた鉛筆の) その削りかすが火鉢の中に入って、ぷ〜んという匂いがしてなあ」

「俺は落書きばかりして、勉強ひとつもしなかった。でもこれぐらい短くなるとな、その分だけ頭がよくなったような気がしたもんだ」

と、聞き手の心を惹きつけ、思わずその鉛筆を買いたくなるように語りかけます。

昨夏の教職員研修「高岡わくわく寄席」で三遊亭美よしさんの落語を拝聴しました。生で落語を聴くのは初めてです。美よしさんの頭上に登場人物が現れているような錯覚を覚えました。声の変化、抑揚の付け方、間の取り方等どれも素晴らしく、話の世界に引き込まれていきます。とても貴重な体験となりました。

さて、私は、子供たちをはじめ保護者や地域の方々、そして先生方等、様々な方々に話をする機会をいただいておりますが、自分の思いをうまく伝えられたか不安になり反省ばかりしています。で

すから、くだんのお二人のようにお話の上手な方にあこがれ、つい聴き入ってしまいます。

担任をしていた頃、運動会や学習発表会等に取り組み始める時や、生徒指導上の問題が起きた時等、様々な場面で子供たちに自分の思いを伝えてきました。

道徳の終末もそうです。内容項目、資料、授業の展開と照らし合わせながら、何をどのように話そうかじっくりと考えました。具体的な事例を盛り込むこと、そして、押しつけがましくならないようにすることに配慮しました。失敗談を交えながら話をすると、先生にも弱いところがあると共感的に捉えてくれる子供が多かったように思います。

得てして、伝えたい気持ちが強ければ強いほど気持ちが空回りし、子供たちの反応があまり芳しくありませんでした。その反応を見て、さらに力が入るという悪循環に陥ることがしばしばありました。

わずかですが、自分の思いがうまく伝わったと感じることもありました。その時は決まって、穏やかな口調で、間も取っていたと思います。寅さんが鉛筆の売り方を実演していた時のように、伝えたい気持ちを前面に出さず、イメージしやすいように語っていたのかもしれません。

これからも思いを語ることを大切に、少しでも子供たちの心に残る話ができればと思っています。

主体的に学び続ける教師を目指して

1学期から夏季休業中にかけて実施した研修について紹介します。



今日的な教育課題に対応した学び

◇外国人児童生徒教育研修会

4月15日（火）高岡市役所（参加者11名）



日本語指導担当教員を対象に、高岡市教育委員会 学校教育課 指導主事 楠 良太 先生を講師に職務内容について周知を図る研修を実施しました。年度初めに情報交換の場を設けることで、指導上の悩みを出し合ったり、他校の事例に学んだりする機会となりました。10月末には、今年度初めての試みとなる代表者による研究授業や協議会を実施する予定です。

◇ICT活用研修会

第1回 4月23日（水） 牧野小学校（参加者33名）
第2回 7月29日（火） 五位小学校（参加者42名）

今年度2学期から、学習専用端末のOSがChromeOSに変更となりました。各学校でその活用を促すために、1学期中にGoogle Workspace for Educationの基礎研修とコア研修を行いました。マイドライブやGoogle フォームの説明を受けたり、Classroomを使った共同作業を体験したりしました。参加者は、2学期以降の授業での活用に向け、熱心に実技研修に取り組みました。



◇運動あそび実技研修会

6月6日（金）竹平記念体育館（参加者20名）



富山大学 准教授 澤 聡美 先生をお招きし、幼児期から小学校低学年の発達特性についての理解を深め、特性に応じた運動遊びの実践力を培うために行いました。幼児期に身に付けたい運動スキルについて説明を受けた後、「親子ふれあい体操」「お花紙を使ったあそび」「くるくるコプター」等を体験しました。参加者は、体を動かす楽しさを味わいながら、授業での実践への意欲を高めていました。

◇子供の心サポート研修会

— 児童生徒理解と対応の工夫 —



6月11日（水）戸出コミュニティセンター（参加者23名）

富山県総合教育センター 教育相談部の客員研究主事を講師にお招きし、ポリヴェーガル理論を用いた児童生徒理解と対応の工夫についてご講話をいただきました。児童生徒の心情を「緑・赤・青」の3色のモードで捉えることで、その精神状態や問題行動の背景について考えることができました。さらに、教員自身の心情も3色で振り返り、同じ校種の教員とグループ協議することで、よりよい指導の仕方についても見直すことができました。



◇学力向上研修会

— 校内研修の充実を目指して —

8月4日（月）戸出コミュニティセンター（参加者38名）



大妻女子大学 教授 澤井 陽介 先生をお迎えし、学力向上研修会を行いました。はじめに班別で各学校の校内研修のテーマや研修の進捗具合、研修の悩み等を紹介しました。澤井先生は、その意見を基に研究主題を設定する過程を示していただき、講義では、各班での協議と関連付けながらお話ししてくださいました。

学校の研究主題を設定する際は、教員一人一人が意見を出し合うことで、教員全員が自分事として捉えることができ、主体的な研修につながっていくと実感できた研修になりました。

◇通常級での特別な配慮を要する子供への支援研修会

8月21日(木) 伏木コミュニティセンター (参加者30名)



きずな子ども発達支援センター 発達支援室より4名の先生方を講師に迎え、発達障害の種別やその特徴、よりよい指導法等についてご講演いただきました。グループ協議では、具体的な事例を基に、ロールプレイを通して、問題行動をとる子供の心情を理解したり、支援の仕方を検討したりしました。日頃の指導を振り返り、NG対応をしていたことに気付く場面もあり、子供たちの笑顔のために、一人一人のよさに目を向け、認めていこうという気持ちを高めることができました。



◇道徳教育研修会―「主体的・対話的で深い学び」を生む道徳科の授業―

8月22日(金) 伏木コミュニティセンター (参加者42名)



畿央大学 教授 島 恒生 先生をお迎えし、道徳教育研修会を行いました。小学校教材「雨のバス停留所で」、中学校教材「二通の手紙」の中心発問を考えることを通して、道徳科の授業の在り方を考えました。「状況理解レベル」から「心情理解レベル」、さらに「道徳的価値レベル」で深い学びができる授業をする大切さを改めて考えさせられるお話でした。島先生が仰った「シンプルな展開で深く考え合える授業」を日々の授業で心がけたいものです。

教員の資質向上



◇教頭マネジメントセミナー **NEW**

第1回 4月30日(水) (参加者17名) } 戸出コミュニティセンター
第2回 8月 1日(金) (参加者21名)



初任・2年次の教頭を対象に、第1回は「教頭の職務について」情報交換や悩み等を共有し、活発な意見交換が行われました。高岡市教育委員会 参与 鳥内 禎久 先生から指導助言をいただき、教頭としての在り方を学びました。

第2回は「危機管理」「保護者対応」について、教育センター所長 高松 毅 先生、志貴野中学校長 杉山 智充 先生からご講義いただきました。先生方の豊富なご経験を基に、具体的な事例について管理職としていかに取り組むかを真剣に考える機会となりました。

◇専科教員研修会 6月3日(火) 戸出コミュニティセンター (参加者17名)

教科指導員をアドバイザーとし、算数・社会、理科、外国語、実技(体育・図画工作・家庭)のグループに分かれて互いの実践を共有し、専科ならではの課題や悩み等について話し合いました。6～11月の間に、小中連続した学びの実現に向け、それぞれの教科指導に生かせるよう中学校での授業を参観する研修を行っています。



教員のための教養講座

◇高岡再発見講座 7月25日(金) 勝興寺 (参加者34名)



勝興寺文化財保存・活用事業団 専務理事 高田 克宏 先生を講師に勝興寺の見学を行いました。勝興寺の歴史や建造物等、瑞龍寺との比較を交えながら講話いただきました。勝興寺の魅力にたっぷり浸り、歴史・文化の触れる貴重な機会となりました。

◇古典芸能を楽しもう 7月30日(水) 伏木コミュニティセンター (参加者32名)

落語家 三遊亭 良楽 師匠をお招きし、落語を2席(「つる」、「徂徠豆腐」)を鑑賞しました。トークショーでは学生時代の思い出や落語家になるまでの苦労話等、巧みな話術に引き込まれ、会場が笑いの渦に包まれる楽しい研修の時間となりました。



◇高岡の伝統工芸を学ぶ 7月31日(木)、8月7日(木) ZIBA (参加者6名)



今年度は、中村 喜久雄 先生、中村 孝富 先生を講師に、砂型鑄造の体験をしました。参加者は、すずのプレートとぐい呑み作りに熱心に取り組みました。時間と手間をかけて作品を作ることで、伝統工芸品のよさを感じ取ることができました。

◆リーディングDXスクール事業◆

リーディング DX スクール事業は、文部科学省が令和5年度から行っている事業です。GIGA スクールの標準仕様に含まれているソフトウェアとクラウド環境を活用し、児童生徒の情報活用能力の向上を図りつつ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実や校務 DX を行い、全国に事例を展開しています。高岡市は今年度、指定箇所1年目として選ばれ、五位小学校と五位中学校を指定校として実践研究を行っています。

学校 DX 先進自治体である沖縄県嘉手納町在住の学校 DX アドバイザー大城智紀先生をお迎えした9月の五位小学校の研究会では、市内教員だけでなく他市県からも参加者がありました。参加者は、ワークショップで端末での共同作業をしたり、Gemini（生成 AI）の操作体験をしたりしながら学校 DX 推進への意欲を高めました。10月の五位中学校での研究会では、学習専用端末を活用して单元内自由進度学習に取り組んだ社会科の授業が公開されました。これらの研究会を機に、学校 DX の取組が市内に広がっていくことを期待しています。



★ 高岡市適応指導教室（きらら子教室）の紹介 ★

悩みを抱える児童生徒や保護者との相談活動、不登校児童生徒への援助等を行っています。対象児童生徒についての相談は随時受け付けております。（TEL 20-1656）

◇日常の活動…教育相談、学習活動、体育活動 等

◇特設の活動…校外学習、調理実習、絵手紙教室、親子交流会、

氷見市・射水市との交流会（陶芸教室、スポーツ交流会）

◇関連活動 …保護者個別懇談会、学級担任との情報交換会、高岡地域親の会 等

貸出中! 申込は、☎20-1204まで

◆プログラミング教材◆

- ・マイクロビット 300 セット
- ・ビットパッカーレーサー(4 輪車) 40 台
- ・湿度センサー 40 個

◆視聴覚教材◆

・DVD

◆研修図書・教育資料◆

・教科書 ・教育論文 ・指導案 等

◇初任者研修会、若手教員研修会

高岡市では、独自の初任者研修会と若手教員研修会を実施しています。それらの研修会の様子は、後日発行する「若手研だより」や「センターだより 237 号」でお知らせする予定です。



—所員紹介—

所 長	高松 毅
次 長	大野 宏子
教育専門員	林 由香
指 導 主 事	高畠 幸恵
指 導 主 事	高田 淳一
教育相談員	泉 佐知子
教育相談員	大門 信吉
教育相談員	柳原 昌人
事 務 員	関 由里子
事 務 員	上坂 哲也

高岡市教育センター

〒933-8601 高岡市広小路7番50号（学校教育課内）

TEL 20-1204 FAX 20-1667

ホームページ **高岡市教育センター**  で検索!